

會澤秋邨 あひざき しゅうそん 俳人。明治八年二月六日岐阜縣牧野村生れ、昭和十六年十一月二十八日歿（八十五）。本名秀丸。別號塔東居、柿本、止心庵、花本。明治十五年兵庫縣生野銀山に轉住、但馬の儒者曾田寧峯の塾に入り漢籍を學ぶ。二十一年京都に移り、二十八年京都府立第一中學校を卒業、その後二年餘母校で國漢習字の教鞭を執る。退いてのち俳道に専念。花本十一世上田聽秋に師事して梅黃社に入る。大正四年社を辭すと、昭和七年聽秋歿後花本十一世を繼承。俳誌『句』、『東山』、『塔』等を手宰したが、生前句集は有らなかつた。『會澤秋邨句集』（昭和十八年二月十一日會澤靜也跋）には、大正四年以降の千百餘句を収める。『花本十一世秋邨終焉記』（昭和十七年十一月七日京都在任門人編）刊。

